

普通期水稲における今後の管理のポイント

①雑草の発生に注意しましょう。

今年の4月～6月中旬までの降水量は、平年に比べ非常に多かったため、田植は順調に行われました。初期除草剤については、湛水期間が十分に確保できなかったところで効果が十分に発揮出来ず雑草の発生が見られます。すでに梅雨時期に入っており、農薬散布のタイミングが難しくなりますが、繁茂する前に中期除草剤を散布しましょう。

残っている草	除草剤	10a処理量	使用時期	備考
ヒエ アゼカガリ	クリンチャーEW	落水処理 100ml/ 水 100～25L	田植後 20日～ ノビエ 6葉まで (但し収穫 30日前まで)	展着剤を加用する 雑草の茎葉によく付着するよう散布
	クリンチャー 1キロ粒剤	湛水処理 1kg	田植後 7日～ ノビエ 4葉まで (但し収穫 30日前まで)	1.5kg 散布では、 田植後 25日～ ノビエ 5葉まで
広葉雑草 (含 ホタルイ)	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	落水処理 500～700ml/ 水 70～100L	田植後 15～55日 (但し収穫 50日前まで)	処理後 2日以内の降雨は効果を不安定にする
	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	落水処理 3～4kg	田植後 15～55日 (但し収穫 60日前まで)	
ヒエ 広葉雑草 (含 ホタルイ)	クリンチャーバス ME 液剤	落水処理 1000ml/ 水 70～100L	田植後 15日～ ノビエ 5葉まで (但し収穫 50日前まで)	展着剤は加用しない 雑草の茎葉によく付着するよう散布
	ワイドショット 1キロ粒剤	湛水処理 1kg	田植後 15日～ ノビエ 4葉まで (但し収穫 45日前まで)	散布後 3～4日間は湛水状態を保つ

特別栽培米では、農薬成分数の使用制限がありますので、使用の際はご注意ください。ご不明な点がございましたら、JAまたは普及指導センターへご相談ください。使用時期等についてもご確認をお願い致します。

裏面に「いもち病防除」・「ウンカ・カメムシ」情報を記載しています。

②いもち病の発生に注意しましょう。

梅雨時期は、いもち病が発生しやすい環境となります。田植え後の圃場をよく観察し、発生を確認した場合は防除を実施しましょう。特に「葉いもち病」は**初発に防除を行う事が重要**です。

※散布する農薬は稲作暦をご確認ください。

～ 注意が必要な「いもち病菌」の感染環境 ～

①感染に好適な温度

平均気温が19℃～25℃

②発生しやすい圃場

山陰などで朝露が乾きにくい
窒素成分が多く葉色が濃い

③置き苗(捕植用)が圃場にある 置き苗に発生した「いもち病」 により圃場へ菌が蔓延する恐 れがあります。

置き苗は早急に除去しましょう。



いもち病の病斑例

③イネカメムシの発生状況について

昨年、新たに発生した「イネカメムシ」によって、出穂期頃から吸汁加害による不稔粒や未熟粒等が発生し、収量低下の大きな要因となりました。

現在、6月上旬時点では、管内での発生は確認されていませんが、福岡県内にて数頭ではあります。今後発生状況や防除時期については、稲作情報や講習会等で情報発信を行っていきます。



イネカメムシ成虫

④ウンカ類の飛来情報について

6月上旬時点での速報によると、福岡県内での飛来は確認されていません。管内についても、今のところ確認されておらず、ここ数年から見ると飛来時期は遅くなっています。

今後、多数の飛来や急激に増殖する可能性も考えられますので、7月以降の情報をお待ちください。